



第34回JSCRS学術総会共催
モーニングセミナー2

34th JSCRS

2019年6月29日(土)
7:50-8:50

第6会場 京都市勧業館 みやこめっせ
(B1階 特別展示場B)

JFC Cutting Edge セミナー Part5



■ 座長のことば



医療法人明和会
宮田眼科病院

宮田 和典先生

「JFC Cutting Edge セミナー Part5」はJFC製品の最新情報をお届けするセミナーです。今回は話題の二つの新製品と時間を経て再評価された製品について、新進気鋭の3名の先生方にご講演を頂きます。

まず、岡先生には発売が待たれていたハイデルベルグ エンジニアリング社の前眼部OCT「アンテリオン」の性能と臨床的評価について、半田先生には視機能検査の概念を変える、両眼開放下における多焦点視力検査とコントラスト感度検査がおこなえる「accu-pad (アキュパッド)」について、また鈴木先生にはハーグストレイト社手術顕微鏡「Hi-R NEO 900」の見逃されてきた魅力とコストパフォーマンス、更に広角眼底システム「EIBOS2」の性能評価についてご講演頂きます。

日進月歩の医療機器を導入し、大きな費用対効果を得るために多くの先生方と情報を共有できることを期待致します。

■ ご講演抄録



岡眼科クリニック

岡 義隆先生

これは使える！ 前眼部OCTアンテリオン

待ちに待ったハイデルベルグ エンジニアリング社の前眼部OCT「アンテリオン」。
ESCRSでの衝撃のプロトタイプ公開から3年。様々な機能を搭載していよいよ正式にデビューしました。OCTといえばハイデルベルグと言われるだけあって、より多くのBスキャン数とオートトラッキング機能により得られる画像は、非常に高精細かつ精緻で、まさしく従来のものを圧倒します。画像が精密であると言うことは、様々な計測に応用出来る証でもあります。さらに同時に光学的眼軸長計測が可能となり臨床上的利用価値が大幅に向上しました。承認間もない「アンテリオン」のファーストインプレッションを皆様にお伝えしたいと思います。



北里大学医療衛生学部
視覚機能療法学

半田 知也先生

日常視下の多焦点視力・コントラスト感度検査 -accu-pad-

多焦点眼内レンズに代表される付加価値IOLは形状、光学設計、デザインにおいて各社・各種で特徴があり、特に遠距離・中間距離・近距離の見え方の質はそれぞれ異なる。付加価値IOLによる見え方の質の評価には視力検査とコントラスト感度検査が基本となるため、付加価値IOLの日常視下におけるレンズ性能を評価できる視力・コントラスト感度検査装置について改めて考える必要がある。

タブレット型両眼開放多焦点視力表accu-pad (アキュパッド)は、多焦点距離での視力・コントラスト感度検査を目指した視力検査装置である。持ち運びのできるタブレット端末を視力表示に利用し、視力検査は5m~33cm (1m~33cmの視標提示は限定的)、コントラスト感度検査 (1.5, 3, 6, 12, 18 cycles/degree)は5m, 3m, 2m, 1m, 70cm (18 cycles/degreeは測定不可)に対応し、自動記録・プリントアウトが可能である。

通常の視力・コントラスト感度検査は片眼遮閉下にて常識的に行われているが、日常視を考慮すると両眼開放下が理想である。accu-padはホワイトスクリーン技術により非検査眼を遮閉しない両眼開放下(日常視下)の視力・コントラストを評価できる新しい視力検査としての応用も期待される。本セミナーではaccu-pad (アキュパッド)の性能と臨床応用の可能性について考えたい。



善行すずき眼科

鈴木 久晴先生

私がなぜ この顕微鏡を選択したか。

現代の眼科診療において、顕微鏡は必須である。眼科医にとって診察、手術どちらにおいても非常に微細な所見を見逃すことはできない。私は、外来診察時においてHAAG-STREIT社のゴールドマン型スリットランプを長年愛用してきた。近年では光源がLEDとなりその見え方に更に磨きがかかっており、クリニック開業を決めた時もこのスリットランプ以外、他に選択肢はなかった。そこで、次は手術用顕微鏡の選択についてである。現在の手術用顕微鏡はハイテク化しており、その見え方も各社様々である。ビデオオーバーレイ機能やOCTを搭載しているものなど、非常に優れているが高額である。そこで、長年愛用してきたスリットランプと同じ会社であるHAAG-STREIT社の手術用顕微鏡を試しに使用してみた。Hi-R NEO 900は最高機種であるが比較的リーズナブルである。結果は、私が想像していた以上のものであった。手術時の繊細な所見を把握できるだけでなく、様々なフィルターも標準装備されているため、網膜への保護効果も期待できる。また、硝子体手術時に使用する広角眼底システムであるEIBOS2も一つの機器の中に画像変換がまとめられており、非常にシンプルで使いやすいと感じた。今回の講演では、シンプルであるが細かい部分にこだわりもあるHAAG-STREIT社の手術用顕微鏡の魅力について手術動画を中心に語ってみたいと思う。

[共催]

第34回JSCRS学術総会
株式会社JFCセールスプラン
ジャパンフォーカス株式会社